

読者のみなさんに聞きました——うそ、いろいろ

あんなウソ、
こんなウソ



★5歳児グループの製作あそびの時、ハサミを出して「左利きの人はこっちのハサミだよ」と言うと、「あっ、ほく左」と。とても上手に切っていたので、疑うこともせずいたら、しんどくなったのか「ホントは右」と。必死で切っていたのかと感心し、「先生やったらできないわぁ」と褒めてしまいました。みんなより遅れをとってあせりだしたので、「手伝おうか」と言うと、素直に頷いたのがめっちゃ可愛かったです。(保育士)

★校外学習に参加したくないと言い張る生徒。「ダルい」「めんどくさい」「興味ない」に「まあまあ、行けば楽しいかもよ」などと説得しました。しかし、実は家庭の経済状況から数百円の経費を持ってこれなかったことが理由でした。泣きながら「本当は行きたかった」「お母さんに申し訳なくて」「嘘ついてごめんなさい」と言う生徒。察してあげられなかったこと、今でも悔やんでいます。悲しい嘘でした。(教員)



★息子がまだ幼かった頃のクリスマスが近づいてきたある日のこと。突然、息子から「お父さん、サンタクロースって本当はお父さんなんですよ、サンタクロースなんて本当はいないんですよ」と言われ、それに対してひと言「サンタクロースなんて実はいないと思った時から来てくれなくなるんだよ」と返答した時の息子の瞬時の「おる」という反応（その後、親子で大笑い）。

★夏休み、冬休みの宿題に絵日記のページを作りますが、同じように「うそ日記」のページも作ります。嘘ばかりの日記を書くというページです。最初はどう書いていいかわからず、私が例で書いていた「宇宙人が来た」をそのまま書き写していただけた生徒たち。ところが長期休みのたびにこのページを用意しておく、だんだんと「おもしろい」と思う内容になってきます。宝くじが当たった、俳優の〇〇に会ったという内容や、文の量も少しずつ増えていきました。意識してはいませんが、「相手が『おもしろい』と感じる内容を考える（相手のことを考える）」「状況や文脈をくわしく伝える」といった力を育てていくと、くみの一つになっていたのかもしれない。(教員)



とっておきのウソ

- ◆不安や恐怖で人と関われない時に自分を誇大的に見せるために「私には靈感や超能力がある」と嘘をついていました。
- ◆寝たきりになった高齢の叔母に、昔の家の様子を聞かれ、「あの頃のままの芝桜や牡丹が咲いてるよ」と。
- ◆「精神衛生上必要だ!」と言いながら、なんとか妻を説得して趣味の釣りに再々行こうとします。あ、あながち嘘ではないかも…。
- ◆生まれてこの方一回も嘘をついたことがありません。嘘をつかれたこともない…と信じています。でも、支援員やヘルパーさんが、支援の時間が過ぎていても「まだ大丈夫!」と言って私の悩みを聞いてくれたり、仕事を辞めることを隠したり…とやさしい嘘をついてもらったことはあります。



特集

うそ。ウソ！
ばれちゃった??

うそってよくないこと？ 実践場面で、子育ての場面で、「うそ」は身近にあるものではないでしょうか。人と人との関係の中ではいろいろなうそがあります。信頼できるからこそそのうそ、やさしさのあるうそ、人を傷つけるうそ。また、子どものうそは、心配になるうそもあれば安心できるうそもありますよね。そして時にうそがSOSの発信だったり…。

子どもも大人もみんなうそをつきます。だからこそ嘘か真か、善か悪かといった二分的な価値観だけではとらえたくない。今回の特集がうそと向き合い、うそのイメージを変えるきっかけになればと思います。

子どもの頃についてウソ

- ★遊びに行った友達の家から帰りたくなくて、「お母さんは用事があって帰りが遅くなる」と嘘をつきました。当然バレて、母にもすごく叱られました。浅はかでしたね～。
- ★小5の頃、夜はポスティング、家では内職と貧乏で、苦しい家庭でしたが、「家族は普通だよ」と嘘をつくしかありませんでした。
- ★心配をかけたくなって、「大丈夫?」と尋ねられると、ほぼ必ず「大丈夫」と言っていました。
- ★嘘をつくと余計に母に叱られることをわかっていたので、嘘はめったにつかかなかった記憶があります。

